



寄未知タイムス

理念・校訓 「学・思・貫」

発行 令和5年5月26日
那覇市立寄宮中学校
生徒数 526名
学校だより 2号

「アフターコロナ」

校長 望月雄紀

5月8日に新型コロナウイルス感染症が、5類感染症に移行しました。教育委員会からも新たな方針が出ています。これで日常を取り戻すことができるのでしょうか。

コロナ禍では、授業や学校行事等の教育活動の制限や縮小が求められました。新型コロナウイルスが収束に向かえば、コロナ禍で失われたものを何とか取り戻したいという気持ちが強くなりますが、元に戻す意識よりも、コロナ禍を経験して得られたものを大事にする意識が必要になると思います。具体的にいえば、オンライン会議やICTを活用した授業実践が進みました。教育活動や業務内容を見直し、新しい学校づくりを進めるための視点や発想も生まれたと思います。業務内容のスリム化をそのまま進め、教員の負担が軽減されることによって時間的・精神的な余裕が生まれれば、日常の授業改善が促進すると思います。

また、PTA活動も見直しが必要になると思います。本校でも新垣PTA会長の発案で、新しい形でのPTA役員の選出が行われるなど、新たな取り組みが始まっています。学校、保護者、地域が協働して子どもたちの成長を支える無理のないパートナーシップを築いていきたいと思っています。地域と職員のコミュニケーションの場として、毎月第3木曜日の「寄りの会」も復活しました。今後は、学校の存在意義をより意識した取り組みをしていくことが、アフターコロナでは特に必要であると考えます。

そして、コロナ禍で培った家庭との連携による生徒の健康状態の把握、適切な換気の確保、手洗い等の手指衛生や咳エチケットの指導といった対策は、必要時には迅速に対応できる体制を維持しておくことも大切です。

保護者の皆様におかれましては、出席停止等の取り扱いも変わりましたので、配布した公文（HPにも掲載）を確認の上、ご対応をよろしくお願いいたします。

新入生歓迎球技大会

今年度初めて全校生徒で取り組む行事ということで、生徒会もとても気合いがはいていました。昨年の反省を踏まえ、全校生徒が楽しめるようなルールの見直し、運営の仕方について何度も話し合いを重ね、準備を進めてきました。準備の段階では、各競技のデモンストレーション動画を作成し、中央委員会で説明をするだけでなく、ルールや対戦表、待機場所等を確認できるような手書きのしおりを作成する等、様々なアイデアを出し合うことができました。毎日下校時間ギリギリまでの準備、本当にお疲れ様でした。先輩方から受けついで資料を参考にしながら、自分たちで考え、行動する姿がとても頼もしく、素晴らしい生徒会メンバーです。当日の運営や進行も全て生徒会が中心となっており、生徒の力で行事をつくりあげ、盛り上げられることにとても感心しました。これからも、生徒会が中心となって学校を盛り上げていきましょう。ヨリキュアに出演してくださった校長先生、新入生歓迎球技大会の準備・運営に関わってくださった先生方、各専門委員会の皆さん、ご協力本当にありがとうございました。

【生徒会担当：前花日和教諭】



生徒総会

19日に実施された生徒総会では、活発な討議が行われました。「生徒総会は、学校をよりよいものにするために、生徒全体で学校のことを考える」という意義に合致した取り組みでした。総会を実施するにあたり、生徒会役員をはじめ各種委員会の委員長の準備・運営、各学級の学級討議、大変お疲れ様でした。生徒会は大活躍です。

第49回那覇ハーリー

新型コロナの影響で、4年ぶりの開催となった那覇ハーリー。男女アベック優勝を目標に、未だ肌寒い4月上旬から練習を開始してきました。最初は男女ともに集まりが悪く、各部活動の大会なども重なり、メンバー選考及び座席順の決定など、頭を悩ませ本番当日の朝を迎えました。

男子については、大会一週間前まで漕ぎ手が集まらず、「出場辞退（不参加）もありえるのでは？」と不安を覚えました。校内放送での呼びかけに加え、プールから響き渡る賑やかな掛け声に動かされ、次から次へとメンバーが集まってくれました。さすが、中学生の底力。数日しか練習に参加していないメンバーも、最後の乗船練習（爬竜船での体験活動）に参加したことで気合いが入り、キャプテンの松山峻矢さんを中心にチームが一つになりました。後半から駆け込みで加わった宮良昂成さんの存在も大きく、キャプテンを支え、「チーム寄宮」の雰囲気をもっと盛り上げてくれました。また、仲野輝姫さんが女子をまとめてくれて、大会当日は自分たちで円陣を組んで会場に響き渡る掛け声でレースに臨むことができたことが良かったと思います。

男女ともに予選敗退で、決勝進出とはなりませんでしたが、男子は第4レース2位（総合6位）、女子は第10レース1位（総合4位）という結果を残すことができました。最初は嫌々ながら参加していた生徒も「やって良かった」「とても楽しかった」「来年もやりたい」「来年は絶対に優勝する！」と言う声も多く、悔しい思いをしましたが、三年生が後輩たちに思いを託し、次に繋がる素晴らしい大会となりました。

那覇ハーリーまでの1ヶ月間、朝・昼・晩とハーリー鐘が鳴り響き、地域住民の方々には大変ご迷惑をおかけしますが、保護者や地域、おやじの会（寄の会）の協力、那覇市消防の隊員が指導に来て下さり、素晴らしい環境で練習することができたことに感謝いたします。また、当日には青少協会長の仲里さんから生徒全員分のパンの差入れもありました。大変ありがとうございました。来年こそは優勝旗を持って帰りたいと思います。応援有り難うございました。

【ハーリー担当：平良直哉教諭】



ハーリーを終えての感想

3年 松山峻矢さん

僕は、初めてハーリーの経験をして、最初は櫂の持ち方も分からなくて、一から直哉先生や消防の方々に教えてもらいながら練習をしてきました。また、最初はとてもきつく、学校代表としてチームを引っ張っていけるのか不安でしたが、仲間にも助けてもらいながら乗り越えてきました。乗船練習は、プールと違ってとてもきつく、波や風の影響を受けることから漕ぐタイミングが揃わないと船が進まないということを知ることができました。本番では、男子が6位、女子が4位で、決勝に進むことができず、とても悔しい思いをしました。それでも印象に残ったこととして、「寄宮中は他の中学校よりも優勝したいという気持ちは負けていなかった」と思いました。この経験は、必ずどこかで活かせると思うので、この気持ちを忘れないようにしたいです。自分たちのことを約1ヶ月間支えてくれた先生方や保護者、そして地域の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、後輩のみなさんへ、「僕たちが成し遂げられなかったアベックでの優勝」を目標に、今年ハーリーに参加したメンバーを中心に来年も頑張ってください。約1ヶ月間ありがとうございました。

学級PTA・日曜授業参観・学校説明会のお礼



とはいえ、予想以上の来校者で、大変嬉しかったです。来年は本校も70周年を迎えますので、益々のご協力とご支援をお願いいたします。

保護者の皆様におかれましては、4月28日（金）の学級PTA、5月21日の日曜授業参観及び学校説明会に足を運んでいただき、ありがとうございました。特に授業参観は、受付に丸をつけていただいた方が230人で、ほとんどがご家族できていただいていたので単純に倍と考えても、450人以上の保護者、ご家族においでいただきました。コロナ明け

